
令和2年

10月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

新たなブランドづくり

郡上農林 ■スマート農業 アシストスーツを着用した収穫出荷作業を調査

10月13日、「ひるがの高原だいこんスマート農業実証」にて導入したアシストスーツについて、だいこん収穫・出荷作業時の効果を調査した。

収穫では実証経営体である㈱エスタンシアの作業員7名が、アシストスーツを着て早朝から作業を行った。作業員からは「腰の負担が軽くなる」という感想がある一方で、「動きにくい・暑い・重い」という意見もあった。出荷作業では10kg入り段ボールをパレットに載せる作業を行った女性従業員から、「いつもより負担が減って楽にできた」という感想も得られた。

農業普及課では、今回の調査結果を分析しコンソーシアムでの検討を行うなど、スマート農業の実証に取り組んでゆく。



【アシストスーツの試用】

可茂農林 ■茶 産地独自品種の育成に向けた二次選抜

他産地との差別化につながる特徴と希少性のある商品づくりのため、今年度から白川町と東白川村の茶業振興会が協力して、産地独自の特徴ある品種の育成に取り組み始めている。両町村の茶農家の協力を得て、5月に一次選抜した在来種を栽培する茶園の株から挿し木を行い育ててきた。

一次選抜した株の芽が伸びてきたため、茶商及びJAめぐみのと連携し、樹勢や香りの優れた株を二次選抜し、10月9日に挿し木を行った。

今後は荒茶の評価を行うため、製茶機で加工できる量の生葉が得られるよう二次選抜株の生産面積を拡大する。少しでも早く評価を行えるよう、来年3月の移植を目指し、移植予定の茶園の準備を行っていく予定である。

今年度から白川町と東白川



【芽伸びの良い株（手前）】

多様な担い手づくり

中濃農林 ■農業大学校連携 先進農家派遣学習支援

農業大学校の学生は通常の授業・実習の他に、先進農家派遣学習を毎年行っている。

本年は1年生3名が9月下旬から1週間、2年生3名が10月上旬から1か月間、管内の園芸・畜産農家において実習に取り組んだ。2年生の派遣学習の初日には出発式を行い、学生3名が受入農家を前に抱負を述べ、農家からは実習生へ期待の言葉が贈られた。派遣学習期間中は、農業大学校の指導職員と農業普及課が連携して受入農家を訪問し、進捗状況のほか学生の学習態度などについて生産者に確認を行った。

農業普及課では今後も農業大学校と連携し、派遣学習の支援を行っていく。



【出発式の様子】

東濃農林 ■集落営農 新たな法人組織「農事組合法人北小木営農」が誕生

多治見市北小木地区では、北小木機械化営農組合が地域の水田農業を担い、農地保全を行ってきた。農地の保全を将来にわたり継続させ、水田農業を維持・発展させたいという意向を持っている。

昨年夏から、法人設立に向け組合員、多治見市、JAとうと、農業経営課、東濃農林事務所等の関係機関で検討を重ね、10月14日に北小木集会場にて農事組合法人北小木営農の設立総会の開催に至った。設立総会では発起人から事業計画や定款等の説明があり、すべての議事について承認された。新法人は19日に登記の手続きが行われ、正式に設立された。

新法人設立を機に担い手の意欲は高まっており、他地域への波及効果も感じられる。農業普及課では今後も組織活動支援を継続する。



【設立総会の様子】

恵那農林 ■ 夏秋トマト 「東美濃夏秋トマト研修農場運営に関わる検討会議」を開催

新規就農者育成に向け、平成29年度に4ヶ所の「東美濃夏秋トマト研修農場」が整備された。あすなろ農業塾長による指導のもと、これまで7名が研修を経て就農し、現在も4名が研修中である。研修農場の運営等には課題もあるため、農業普及課では各塾長及び関係機関職員らを参集し、検討会を開催した。

会議に先んじて研修生らを対象に研修農場に対する所見等を調査し、受講者側の意見として示し、一層良好な就農支援環境づくりに向けて検討した。その結果、研修カリキュラムの修正や、農場運営を評価検討する会議を定期開催するなど、改善に向けた複数の見直し事項が明らかとなった。現在、農業普及課は研修農場運営の見直し事項をまとめている。

新規就農者は産地の出荷量の増加に寄与するだけでなく、将来はあすなろ農業塾長のように仲間づくりを働きかける側にもなりうる。就農支援は産地振興の基礎、かつ産地の未来づくりでもあることから、農業普及課では活動の重点として、継続支援に取り組む。

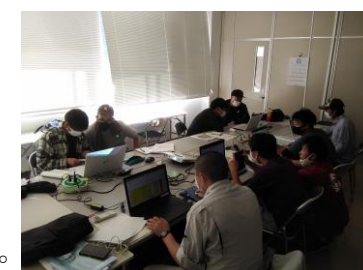


【会議の開催状況】

下呂農林 ■ 新規就農者支援 トマト長期研修生等へ就農計画作成を指導

10月12日、下呂総合庁舎において、来春の就農を目指すトマト長期研修生等を対象に、青年等就農計画認定申請書等の作成指導を行った。当日は下呂市・JAひだ・農業普及課の担当者が、経営開始から5年間の目標の明確化をはじめ、市の認定基準に適合した営農計画の樹立、適正な労働時間、労働力の確保、経営の資金繰り等、実現可能な計画を樹立するよう指導した。また、青年等就農資金の借入希望者に対しては、資金の概要や申し込み手順についても説明した。

下呂市では11月17日に認定新規就農者就農審査会が予定されている。農業普及課では今後も関係機関と連携して、新規就農認定に向けた重点的な指導を継続する。



【指導の様子】

革新支援センター ■ 普及指導員 スマート農業専門研修（果樹）第3回の開催

10月6日、果樹担当普及指導員6名を対象に、高度なスマート農業技術の知識習得を図ることを目的とした、スマート農業専門研修（果樹）第3回を開催した。

今回、現地実習では柿園においてドローンで撮影した上空画像から樹幹占有率を算出する方法について、農業革新支援センターから説明した。室内講義では農業技術センターにおける果実判別技術の研究取組として、柿のサクサク感や日持ち性の判別が可能となる音響振動法の紹介を行った。また、岡山大学大学院の赤木准教授から、次年度から県と岡山大学で共同研究を予定しているカキ・モモの果実判別技術の紹介が行われた。

果樹におけるスマート農業技術はまだ研究段階のものが多いが、研究機関とも連携しながら、現地での技術確立に努めていく。



【岡山大学大学院赤木先生による講義】

売れるブランドづくり

岐阜農林 ■ スマート農業 ラジコン草刈り機の現地試験を実施

山県市の農事組合法人おおがでは、直進アシスト田植機やドローン、ラジコン草刈り機などを利用したスマート農業に取り組んでいる。山県市は中山間地域であるため広い畦畔の除草管理に多くの労力と経費を要する。また、除草作業は暑い時期に人力で行うため、作業への負担が大きく省力的な方法が望まれている。

10月13～14日にぎふスマート農業推進センターからレンタルしたラジコン草刈り機2機と自社所有機1機について、操作性や作業時間などの試験を行った。農業普及課はこの試験に立合い、実用性や作業効率の確認を行った。

農業普及課では今回の試験結果を地域の担い手へ紹介し、中山間地域におけるスマート農業を推進していく。



【ラジコン草刈り機】

西濃農林 ■ 冬春トマト 品種別研修会を開催 ～ほ場の状況を映像で説明～

J Aにしみの海津トマト部会は、9月24、25、28日にスマート農業推進センターにて品種別の栽培研修会を開催し、生産者、関係機関等述べ75名が出席した。

農林事務所からは、事前に撮影した生産者のトマトの生育状況の動画を放映し、映像を見ながら生育状況と栽培管理について説明を行った。また、コナジラミ対策についてはハウス内で増殖させない方法及びハウス周囲の除草徹底を、土壌病害対策については早期発見・早期病害株撤去を行い2次感染防止に努めるよう助言した。続いてタキイ種苗及びサカタの種から、品種特性に応じた管理ポイントについて講演があった。

今作は11月より本格的な出荷がスタートするが、台風も少なく生育も順調で、収量増が期待できることもあり、熱心な研修会になった。



【動画の一場面】

揖斐農林 ■ かき・茶 スマート農業の推進～アシストスーツで軽労化～

9月23日から10月13日に、スマート農業機械・機器貸出事業を活用し、アシストスーツ3種の導入検討が行われた。これは、地域や品目に適した機械・機器の選定、導入を支援するため、岐阜県スマート農業推進センターが貸出を行う事業である。柿は集荷時のコンテナ移動、茶は製品の梱包・運搬に試用を行った。農業普及課は通常の作業との比較や定量効果、作業への適応性についての調査を支援した。

産地では、今回の試用結果を参考に今後の導入について検討することとしている。



【機械の試用風景】

飛騨農林 ■ スマート農業 ラジコン式草刈機の実演会を開催

10月15日、飛騨市宮川町のナチュラルみやがわで、中山間地域等直接支払制度の協定を締結している集落の農業者を対象に、ラジコン式草刈機の実演会が開催され、約30名が参加した。当日はラジコン式草刈機2機種について、実際に水田畦畔の法面で草刈り作業が行われた。参加した農業者は、畦畔から離れた安定した場所から機体を操作でき、安全で快適に素早く草刈り作業ができるラジコン式草刈機に羨望の眼差しを向けていた。

農業普及課では、スマート農業加速化実証プロジェクトやスマート農業機械・機器貸出事業を活用し、各市村の実演会開催を支援しており、すでに高山市では6月26日、白川村では9月19日に開催されている。今後はアシストスーツの実演会の開催も支援し、スマート農業の普及に向けた活動を継続していく。



【畦畔法面での実演】